

さいたまトリエンナーレ2016にゆかりある方や各界の方々を招き、リレートークを行います。さいたまトリエンナーレ2016のディレクター 芹沢高志と、さいたまアート、国際芸術祭の魅力について語り合うとともに、さいたまトリエンナーレ2016の試みや見どころ、今後の展開についてご紹介します。

RELAY TALK

1

第1回 参加するトリエンナーレ

さいたまトリエンナーレ2016は誰もが楽しめる、参加できる国際芸術祭です。グローバルな視点を持ち、文化芸術への造詣も深いアンドレア・ポンピリオさんとともに、さいたまトリエンナーレで何が起きるのか、楽しみ方や見どころも語り合います。



アンドレア・ポンピリオ Andrea POMPILIO

東京生まれ、イタリア人の父と日本人の母、オランダのパスポートを持つ。愛称は「アンディ」。ネイティブな日本語／英語／イタリア語を生かし、TVやラジオなどのMC／ナビゲーターとして活動。グローバルなカルチャーやライフスタイルを紹介し、海外と日本の架け橋役を目指す。NHK WORLD「DESIGN TALKS plus」、NHK Eテレ「きょうの料理」に出演中。
http://www.andreapompilio.net

RELAY TALK

2

第2回 アーティストからみるトリエンナーレ

さいたまトリエンナーレ2016の参加アーティストである音楽家の大友良英さんをお招きし、これまでの活動の紹介も含めて、さいたまトリエンナーレの今後の展開について語り合います。



大友良英 OTOMO Yoshihide

1959年、横浜生まれ。東京都在住。即興演奏やノイズ的な作品からポップスに至るまで、世界中で多種多様な音楽をつくり続けている。近年は「アンサンプルズ」と名付けたコラボレーションを軸に展示する音楽作品や特殊形態のコンサート、また、ターテーブルを用いたインスタレーションなどにより、美術の分野においても高い評価を得ている。2012年、十代を過ごした福島での震災後の活動で芸術選奨芸術選奨文部科学大臣賞芸術振興部門、2013年、東京ドラマアワード特別賞、レコード大賞作曲賞他数多くの賞を受賞。札幌国際芸術祭2017 ゲストディレクターに就任。

RELAY TALK

3

第3回 国際芸術祭の未来

各地で展開される国際芸術祭のディレクターやマネージャーが一堂に集い、国際芸術祭とはいかなる試みなのか、今後の可能性や課題、そして連携について語り合います。



南條史生 NANJO Fumio

(茨城県北芸術祭2016 総合ディレクター、森美術館館長)

1949年、東京生まれ。慶應義塾大学経済学部、文学部哲学科美学美術史学専攻卒業。2006年から森美術館館長。国際交流基金(1978-1986年)、ICAナゴヤ ディレクター(1986-1990年)、エヌ・エム・エム(株)代表(1990-2002年、2014年-)、エネチア・ビエンナーレ日本館・ミツコナ(1997年)、台北ビエンナーレコミッション(1998年)、横浜トリエンナーレ2001アーティストティックディレクター(2001年)、シンガポール・ビエンナーレアーティストティックディレクター(2006、2008年)等を歴任。



帆足亜紀 HOASHI Aki

(横浜トリエンナーレ組織委員会事務局プロジェクト・マネージャー)

1994年、シティ大学(ロンドン)にて博物館・美術館運営修士号取得後、フリーになり美術のプロジェクトに携わる。国際交流基金のアジア地域の美術交流事業(1997年-2010年)、ニッセイ基礎研究所のパブリックアート事業(2000年-2002年)のほか、アーカスプロジェクトのディレクター(2003年-2007年)を務める。2010年より横浜トリエンナーレ組織委員会事務局局長補佐、2012年より同事務局局長、2015年より現職。通訳・翻訳も手がける。



港千尋 MINATO Chihiro

(あいちトリエンナーレ2016 芸術監督)

1960年、神奈川県生まれ。写真家・著述家。多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授(映像人類学)。2013年より国際交流基金国際展事業委員を務める。群衆や記憶など文明的テーマをもつ、幅広い活動を続けている。著作「記憶—創造と想起の力」(講談社/1996)でサントリー学芸賞、展覧会「市民の色」で伊奈信男賞を受賞。2006年に釜山ビエンナーレ共同キュレーターを、2012年に台北ビエンナーレ共同キュレーターを務める。2007年にはヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館のコミッションも務めた。

モデレーター

芹沢高志 SERIZAWA Takashi

(さいたまトリエンナーレ2016ディレクター)

1951年東京生まれ。神戸大学理学部数学科、横浜国立大学工学部建築学科を卒業後(株)リジョナル・プランニング・チームで生態学的土地利用計画の研究に従事。1989年にP3 art and environmentを開設。帯広競馬場で開かれたとちぎ国際現代アート展「デメーテル」の総合ディレクター(2002年)、アサヒ・アート・フェスティバル事務局局長(2003年〜)、横浜トリエンナーレ2005キュレーター、別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」総合ディレクター(2009年、2012年、2015年)を歴任。



ACCESS

会場案内

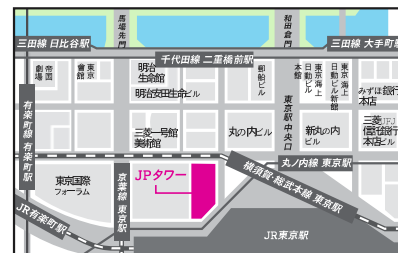
コクーンシティ コクーン2 (3F) コクーンホール



さいたま市大宮区吉敷町A-263-1

アクセス: JR線 さいたま新都心駅南口よりすぐ / 駐車場 30分毎に200円

JPタワー (5F) カンファレンスルームB



東京都千代田区丸の内-7-2

アクセス: JR線 東京駅より徒歩5分、丸の内線 東京駅地下道より直結、千代田線 二重橋前駅より徒歩5分、三田線 大手町駅より徒歩5分、JR線 有楽町線 有楽町駅より徒歩5分

※会場の5階へは、メインエントランスの4階からお越ください。

さいたまトリエンナーレ2016とは



SAITAMA
TRIENNALE
2016
さいたまトリエンナーレ 2016

2016年9月24日 [土] - 12月11日 [日]

126万人が生活するさいたま市に、世界に開かれた創造と交流の現場をつくりだすことを目指す国際芸術祭。テーマは「未来の発見」。アートを鑑賞するだけでなく、共につくる、参加する芸術祭です。まちの成り立ちや知られざる自然、土地の歴史など、生活都市ならではの魅力が見える、市内のさまざまな場所が会場となります。国内外のアーティストたちが発見する、多様で多彩なさいたま。市民の皆さん、観客の皆さんとともに、自分たちのこれからの未来を発見していきます。2015年度はイベントとして、本番となる2016年に繋がるプロジェクトを市内各所で展開します。

主催 さいたまトリエンナーレ実行委員会
問い合わせ先 受付時間 平日: 30~17:15)
さいたまトリエンナーレ実行委員会事務局
(さいたま市スポーツ文化局文化部文化振興課トリエンナーレ係)
〒330-9588 埼玉県さいたま市浦和区常盤 丁4番4号
Tel: 048-829-1225 Fax: 048-829-1996
Mail: bunka-shinko@city.saitama.lg.jp

詳しくはウェブサイトへアクセス!

<http://saitamatriennale.jp/>

このイベントの開催に要する経費は167万円です。
(国庫補助金を差し引いたさいたま市の負担額は、113万円です。)